

天然ゴム農家の転作事業 調査結果は「満足」 転作は持続可能な職業に 農業経済局が発表

ジャリヤー スティチャイヤー農業・協同組合省農業経済局長は、「小規模ゴム農家のための持続可能な職業能力開発事業」についてこの度、本事業に参加した多数の農家が満足したという調査結果を公表した。本事業を今後も継続してほしいという要望がある一方、参加基準の緩和を求める声もある。現在は転作するためには農園面積が 50 ライ以上であることや、所有しているゴムの木の樹齢が設定されているなど、これらのハードルを低くすることで今以上に参加農家が増えると考える農家が多い。また、転作作物のための市場確保も政府へ求めている。

「小規模ゴム農家のための持続可能な職業能力開発事業」は「タイ持続可能事業」の元、タイ 65 県のゴム農家に対し、ゴムの木の伐採を促すことで栽培面積と生産量を減少させ、ゴムの価格に左右されにくくする農家の収入の安定化が目的だ。参加農家に 2 回に分けて補助金を交付した。初回は 1 ライあたり 4,000 バーツ、2 回目は 1 ライあたり 6,000 バーツだった。

本事業は 2018 年 4 月 1 日から 9 月 30 日まで実施された。14,623 戸の農家に参加し、合計面積は 93,062 ライだった。内、13,030 戸・69,080 ライ、がゴムの木の伐採が完了している。
(目標参加戸数：30,000 戸・150,000 ライ)

本事業に参加した農家の理由として、ゴムの木の発育の問題が 37%、ゴムの価格低迷が 28%、転作希望が 23%、労働力不足が 12%だった。

現在、本事業に参加した農家の 74%がゴムの木の伐採のための 1 回目の補助金を既に受けとり、農家のための新たな職業能力開発研修にも参加した。新たな職業能力開発の中では多くの農家が果樹と野菜に興味を持ち、内 61%の農家は 2 回目の補助金も受け取った。タイ国ゴム公社と農業普及局はゴム農家が早急に補助金を受け取れるよう体制を整える姿勢だ。

出所：タイ農業・協同組合省ホームページ(2018/11/6)
<https://www.moac.go.th/news-preview-402891791940>